

高等学校国語「論理国語」学習指導案

令和4年 ○ 月 ○ 日 ○ 限
埼玉県立大宮高等学校
第 3 学 年 ○ 組 ○ 名
授 業 者 嘉 藤 将 大

1 科 目 論理国語

2 単元名 評論（福沢諭吉「学問のすすめ」・中江兆民「国家の夢、個人の鐘」・夏目漱石「断片」）

3 単元設定の意図

（1）生徒観

生徒は非常に真面目であり、学習や部活動等に日々真摯に取り組んでいる。その一方で、真面目すぎるがゆえに①物事の枝葉末節に注目して全体を捉えられない、②自分のことで手一杯となっている、③失敗を極度に恐れ、自分から進んで物事をなさず他者に依頼する、といった様子が見受けられる。

また、生徒の中には近代文語文を苦手としている生徒も多い。近代文語文読解については、古文・漢文の知識を適切に活用しながら、著者の主張を的確に読解する力が求められる。評論文については授業中で何度も扱っており、基本的な読み方は修得している。また、古典に関しても、文法や句法などの基本的な知識は修得しており、一文一文を解釈することはできる。

（2）教材観

苦手とする生徒の多い近代文語文である。テーマも「混迷した時代をどう生きるべきなのか」という難解なものであり、読解には一定の努力を要する。

それと同時に、「混迷した時代をどう生きるべきなのか」というテーマは、コロナ禍である現代にも通じるものである。受験対策に留まらず、その先の人生に思いを馳せ、当事者意識・使命感を持ち、リーダーシップを発揮して未来を主体的に築いていく視点ももたせることもねらいとして、本教材を設定した。

（3）本単元で工夫する点や手立て

ジグソー法を用いて、エキスパート活動により、それぞれの文章を的確に理解させる。その後、班ごとに分かれてジグソー活動を行い、3つの文章に通底するテーマを導き出す活動を行う。その際、各班が導き出したテーマに関しては「メンチメーター」というアプリを用いて、瞬時に共有できるようにする。その後、「メンチメーター」によって表示された単語の中から授業者がピックアップし、全体に追発問をし、それに対する生徒の回答に更に追発問をし、協議をさせる、といった活動を繰り返し、思考の深化を促していく。

4 単元の目標

- (1) 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができる。
(知識及び技能) (2) ア
- (2) 多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすることができる。
(思考力、判断力、表現力等) A(1)エ
- (3) 設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
(思考力、判断力、表現力等) B(1)オ
- (4) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。
(学びに向かう力、人間性等)

5 単元の評価規準

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	①主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。	①多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にしている。 ②設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりしている。	①作品や他の生徒、授業者との積極的な対話をして、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。

6 単元の指導と評価の計画（全3時間扱い）

時	主な学習活動・内容	評価規準と評価方法
1	○エキスパート活動 「学問のすすめ」「国家の夢、個人の鐘」「断片」、各文章の趣旨をそれぞれ読み取る。	【評価規準】 主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。（知識・技能） 作品や他の生徒、授業者との積極的な対話をして、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度) 【評価方法】 全体指導・机間指導による観察 ワークシートの記述内容の確認
2 本時	ジグソー活動① 「3つの文章に通底するものは何か」を班で話し合う。	【評価規準】 多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にしている。（思考・判断・表現①） 作品や他の生徒、授業者との積極的な対話をして、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)

		【評価方法】 全体指導・机間指導による観察 ワークシートの記述内容の確認
3	ジグソー活動②及び論述、全体共有 「我々はこれからの日本をどうしていくべきか、我々自身はどう生きるべきか」を班で話し合い、最後に自分の考えをまとめて、文章に書き、全体で意見交換をする。	【評価規準】 設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりしている。 （思考・判断・表現②） 作品や他の生徒、授業者との積極的な対話をして、自分の考えを広げたり深めたりしようとしている。 （主体的に学習に取り組む態度） 【評価方法】 全体指導・机間指導による観察 ワークシートの記述内容の確認

7 本時の指導と評価の計画（2／3時間目）

（1）本時の目標

- （1）主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めることができる。
（知識及び技能）（2）ア
- （2）多面的・多角的な視点から自分の考えを見直したり、根拠や論拠の吟味を重ねたりして、主張を明確にすることができる。
（思考力、判断力、表現力等）A(1)エ
- （3）設定した題材に関連する複数の文章や資料を基に、必要な情報を関係付けて自分の考えを広げたり深めたりすることができる。
（思考力、判断力、表現力等）B(1)キ

（2）本時の展開

段階時間 (分)	主な学習活動	○指導上の留意点 【評価の実際】
導入 (3)	本時のねらいを確認 (混迷した、明治初期に国や個人はどうあるべきか、その通底したテーマを考えることを伝える)	○エキスパート班から始めることを本時以前に伝えておく。
展開 (10)	前時の確認 (エキスパート班で文章の趣旨を確認)	【評価規準】 近代文語文の的確な理解ができる。 (知識・技能) 他の生徒と積極的な対話をしている。 (主体的に学習に取り組む態度)
(20)	ジグソー活動 (3つの文章に通底するテーマは何か)	【評価方法】 全体指導・机間指導による観察 ワークシートの記述内容の確認 【評価規準】 複数テキストの複合的読解ができる。 (思考・判断・表現) 他の生徒と積極的な対話をしている。 (主体的に学習に取り組む態度)
(5)	活動の共有 (ジグソー班ごとに、通底するテーマを「メンチメーター」に入力)	○「メンチメーター」にはアプリケーションの特性上、語句で入力するよう指示する。 【評価規準】 多角的な視点で根拠を明確にできる。 (思考・判断・表現)

(15)	活動の深化 （メンチメーターの表示に基づいて、授業者が発問（「なぜこのキーワードを選んだのか」）し、生徒の発言と授業者の追発問を繰り返しながら、通底するテーマを再考する）	他の生徒と積極的な対話をしている。 （主体的に学習に取り組む態度） 【評価方法】 全体指導・机間指導による観察 ワークシートの記述内容の確認 ○「メンチメーター」で表示された語句をもとに、発問する。追発問を繰り返し、生徒の考えを深めさせる。 【評価規準】 多角的な視点で根拠を明確にできる。 （思考・判断・表現） 他の生徒と積極的な対話をしている。 （主体的に学習に取り組む態度） 【評価方法】 全体指導・机間指導による観察 ワークシートの記述内容の確認
まとめ (12)	次時への接続 （活動の共有・深化を行った上で、我々はこれからの日本をどうしていくべきか、我々自身はどう生きるべきかを投げかける）	○次時、投げかけた問いについて各自原稿用紙に記入し、全体共有する旨を伝える。 ○ワークシートを回収する。

A人としてみずから衣食住を給するは難きことにあらず。この事を成せばとて、あへて誇るべきにあらず。もとより独立の活計は人間の一大事、「汝の額の汗をもつて汝の食を食らへ」とは古人の教へなれども、余が考へには、この教への趣旨を達したればとていまだ人たるものの務めを終われりとするに足らず。この教へはわずかに人をして禽獸に劣ることなからしむるのみ。試みに見よ。禽獸魚虫、みずから食を得ざるものなし。ただにこれを得て一時の満足を取るのみならず、蟻のごときははるかに未来を図り、穴を掘りて居処を作り、冬日の用意に食料を貯うるにあらずや。しかるに世の中にはこの蟻の所業をもつてみずから満足する人あり。

(中略)

一身の衣食住を得てこれに満足すべきものとせば、人間の渡世はただ生まれて死するのみ、その死するときの有様は生まれしときの有様に異ならず。かくのごとくして子孫相伝へなば、幾百代を経るも一村の有様は旧の一村にして、世上に公の工業を起す者なく、船をも造らず、橋をも架せず、一身一家の外は悉皆天然に任せて、その土地に人間生々の痕跡を遺すことなかるべし。西人言へることあり、「世の人みなみずから満足するを知りて小安に安んぜなば、今日の世界は*開闢のときの世界にも異なることなかるべし」と。Bこのことまことに然り。もとより満足に二様の区別ありてその界を誤るべからず。一を得てまた二を欲し、したがって足ればしたがって不足を覚え、つひに飽くことを知らざるものはこれを欲と名づけ、あるいは野心と称すべしといへども、わが心身の働きを^{おしひろ}拡めて達すべきの目的を達せざるものはこれを^{しんぐ}蠢愚と言ふべきなり。

(中略)

古の時代より有力の人物、心身を勞して世のために事をなす者少なからず。今この人物の心事を想ふに、豈に衣食住の饒かなるをもつてみずから足れりとする者ならんや。人間交際の義務を重んじて、その志すところけだし高遠にあるなり。今の学者はこの人物より文明の遺物を受けて、まさしく進歩の先鋒に立ちたるものなれば、その進むところに極度あるべからず。今より数十の星霜を経て後の文明の世に至れば、また後人をしてわが輩の徳沢を仰ぐこと、今わが輩が古人を崇むのごとくならしめざるべからず。概してこれを言へば、わが輩の職務は今日この世に居り、わが輩の生々したる痕跡を遺して遠くこれを後世子孫に伝ふるの一事にあり。Cその任また重しと言ふべし。

豈にただ数巻の学校本を読み、商となり工となり、小吏となり、年に数百の金を得てわずかに妻子を養いもつてみずから満足すべけんや。こはただ他人を害せざるのみ、他人を益する者にあらず。かつ事をなすには時に便不便あり、いやしくも時を得ざれば有力の人物もその力を^{たくま}逞しゆうすること能はず。古今その例少なからず。近くはわが旧里にも俊英の士君子ありしは明らかにわが輩の知るところなり。もとより今の文明の眼をもつてこの士君子なる者を評すれば、その言行あるいは方向を誤るもの多しといへども、こは時論の然らしむるところにて、その人の罪にあらず、その実は事をなすの氣力に乏しからず。ただ不幸にして時に遇はず、空しく宝を^{うしな}懷にして生涯を渡り、あるいは死しあるいは老し、つひに世上の人をして大いにその徳を蒙らしむるを得ざりしは遺憾と言ふべきのみ。

今やすなはち然らず。前にも言へるごとく、西洋の説やうやく行なはれてつひに旧政府を倒し諸藩を廃したるは、ただこれを戦争の変動とみなすべからず。文明の功能はわずかに一場の戦争をもつてやむべきものにあらず。ゆえにこの変動は戦争の変動にあらず、文明に促されたる人心の変動なれば、かの戦争の変動はすでに七年前にやみてその跡なしといへども、人心の変動は今なお依然たり。およそ物動かざればこれを導くべからず。学問の道を首唱して天下の人心を導き、推してこれを高尚の域に進ましむるには、とくに今の時をもつて好機会とし、この機会に逢ふ者はすなはち今の*学者なれば、学者世のために勉強せざるべからず。

*開闢・・・天地のはじめ。

*蠢愚・・・無知でおろかなこと。

*徳沢・・・徳のめぐみ。恩恵。

*学者・・・学習者、学生。

『東洋自由新聞』、『自由新聞』、今この『自由新聞』、自由の二字を冠むりたる新聞これまでに*三箇生出せり。新聞は紙なり。『自由新聞』を発行するには*皮肉ある自由なかるべからず。皮肉ある自由とは人なり。即ち智慧ある、感覚ある、*甘脆かんせいを嗜むこの、*輕煖けいだんを好む、*大廈高樓たいかを喜ぶ、境遇を造作する、境遇に支配せらるる、至て強きかと思へば至て脆き、弱点と号する無形の氣孔にて充たされたる、一言すれば神と悪魔とより愛せられて常々これが玩弄物となる、一種不可思議の動物なり。彼れかそれ自由を喜びて乃ち自己の総ての發達を喜ぶと同時に、ややもすれば他人の自由を害し他人の發達を害す。

彼れ心ありて善く思ひ、口ありて善く言ひ、腕ありて善く書き、自ら迷ふに由つてもしくは他人を迷はさんと欲して、ここに即ち是を非とし非を是とし、自由の二字を把り来りその意義を去りて文字だけの物となし、この二字に冠むらすに極めて不適当なる題字を以てし、Aこの題字もて自由の意義を破滅し、しかる後天下に呼号して曰く、我らもまた自由主義を貴ぶ者なりと。主義的幻戲師なるかな。彼らが冠むらしたる題字は、早すてに自由の意義を破滅し去れり。残る所は題字のみなり。その題字は何といふか、国家、……国家とは音調佳き語なり、希臘羅馬以来その音響りゅうりやう*瀏亮りやうりやうたり。

斯拔答国中国家の声音殷々たりし、国家の元素たる個人これがために犠牲となりし。羅馬国中国家の声音殷々たりし、国家の元素たる個人これがために犠牲となりし。国家の声音、中古まで響き来りて個人の声音為めに百雷中の虫声にだも値せざりし。英吉利人先づ奮発して個人の声音始て発越し、仏蘭西次に奮発して個人の声音益々発越し、爾来欧州大陸諸国においても個人の多数は常に自己の声音は発越せんと務めたり。奥地利の国家的宰相メテルニツキが国難を避けて英国に出走したるは、激発したる個人の声音に吹飛ばされての事なり。喧躁けんそう、謹譚きんたん、叫囂きやうさう、呐喊とつかん、麵包と呼び米と呼び憲法と呼び革命と呼ぶ、忌まはしき畏ろしき、筆にするさへ不祥なる、血の迸ほとばしる声、肉の飛ぶ音は、皆国家てふ過大の声音の反響なりと知らずや。

B歴史もし功なくんば、実跡もし力なくんば、瞑目澄坐して想像の一能に依頼せよ。人なくして国あるを得べきか。英人をなくして英国をあらし、仏人をなくして仏国をあらし、独人をなくして独国をあらす、彼らの想像は能ふか、吾人の想像は能はず。国をなくして人をあらす、諸国境上の標木を取去るも諸国民これがために一時に消滅すべしとは、吾人は想像せず、彼らは想像するか。

政治学者に誤られたる政治家ほど、人を殺すものはあらず。

極端と極端とを並べて見せる、頑人の夢を覚ます唯この一法あるのみ。

彼ら満面得々然としていはん、政府の設け、兵馬の蓄へ、鉄道の布設、官立学校、皆これ国家的の表発にあらずや。国家的にあざれば国家は保つべからずと。少く考へよ、躁ぐことなかれ。割出すものと割出されたるものと、誠に実に少しの区別あり、少しなれども区別は区別なり。

割出すものこれ個人、割出されたるものこれ国家、政府の設けは個人を安んずるがためなり。兵馬の設けは個人を護るがためなり。鉄道の布設は個人を運ぶがためなり。官立学校は個人を教ゆるがためなり。

目的と手段と、貴君これを知れりや、大兄これを省せりや。個人これ目的なり、国家これ手段なり。国の中には人実に元素たり、世界の中には国実に元素たり。

*三箇生出せり……『自由新聞』には一八八二年六月創刊の第一次と、一八九〇年一〇月創刊の第二次とがある。

*皮肉……皮と肉。ここでは内実。

*甘脆……食物の美味でやわらかいこと。

*輕煖……衣服の軽く暖かいこと。

*大廈高樓……大きく高い建物。

*瀏亮……音の明るく清らかなこと。

A 現代の青年に理想なし。過去に理想なく、現在に理想なし。家庭にあつては父母を理想とする能はず。学校に在つては教師を理想とする能はず。社会に在つては紳士を理想とする能はず。事実上彼等は理想なきなり。父母を輕蔑し、教師を輕蔑し先輩を輕蔑し、紳士を輕蔑す。此等を輕蔑し得るは立派なことなり。但し輕蔑し得る者には自己に自己の理想なかるべからず。自己に何等の理想なくして是等を輕蔑するは、墮落なり。現代の青年は滔々として日に墮落しつゝあるなり。

英国風を鼓吹する者あり。氣の毒なことなり。己れに何等の理想なきを示すなり。英国人は如何なる点に於て模範とすべきや。愚にも茲に至つて極まる。

B 毎日鏡を見る者は昨日の吾と今日の吾と同じと思へり。今日の吾と明日の吾とも同じ者と思へり。かくして十年立つて始めて十年前の吾の大に異なるを悟る。明治の世に住む者も斯くの如し。今年は明年の如く又昨年に似たりと思へり。明治四十年になつて明治元年を回顧したるとき始めて其変化の大なるに驚ろく。

俗人は之を知らず昨日を以て今日を律し、今日を以て明日を律せんとす。日月の留まらざることを知らず、思想の刻々に推移するを覺らず。

昨日迄は大臣がどんな我儘でも出来た世の中なり。故に今日も大臣なれば何でも出来る世と思へり。昨日迄は*岩崎の勢ならば出来ぬことはあるまじと思へり。彼等大臣たり岩崎たる者亦しか思へり。彼等は自己の顔を毎日鏡に照らして知らぬ間に容色の衰ふるを自覺せぬ愚人と同じく。先例を以て未来を計らんとす愚も亦甚し。

かの元勲なる者は自己を以て後世に示すに足る先例と思ふべし。明治の歴史に於て大なる光彩を放つ人物と思ふべし。大久保利通が死んで以来如何に小さくなりたるかを思はず。木戸孝允が今日に至つて忘れられたるを思はず。氣の毒な者なり。

明治四十年のうちに住み古したる輩は四十年は長いと心得て其長い間に名誉ある我等は明治の功臣として後世に伝はるべしとの己惚を有す。

遠くより此四十年を見れば一彈指の間のみ。所謂元勲なる者はのみの如く小なる者と変化するを知らずや。明治の事業は是から緒に就くなり。C 今迄は僥倖の世なり。準備の時なり。もし真に偉人あつて明治の英雄と云はるべき者あらば是から出づべきなり。之を知らずして四十年を維新の業を大成したる時日と考へて吾こそ功臣なり模範なり杯云はゞ馬鹿と自惚と狂氣とをかねたる病人なり。四十年の今日迄に模範となるべき者は一人もなし。吾人は汝等を模範とする様なけちな人間にあらず。

*岩崎・・・明治時代の実業家岩崎。

問一、混乱・変革期の代表的な人物たちは、どのようなことを主張しているか。㊦・㊧・㊨の文章をそれぞれ説明せよ。

問二(一)、㊦・㊧・㊨の文章に通底するテーマは何か。

問二(二)、テーマからキーワードを抽出する。

(1) 我々はこれからの日本をどうしていくべきか。

(2) 我々自身はどう生きるべきか。

[illegible]

イ・ロ・ハの文章に通底するものは何か (単語で入力)

Mentimeter

